

## 宮古語久松方言の形容詞相当形式の語としての自立性

陶天龍

久松方言をはじめとする宮古語において、taka「高い」、pukarasi「嬉しい、楽しい」のような、寸法・新旧・価値・色など、形容詞のプロトタイプ的な意味を持つ形容詞相当形式がある。その振る舞いによって、単独で叙述用法を持たず、叙述用法で使うためには、後ろに名詞を付けるなどの形態統語的な操作が必要である非自立形と、そのまま述部に立つことができる自立形に分けられる。ほとんどの先行研究は、非自立形のみ注目して、形容詞相当形式を語として認めていない。一方、自立形については、たとえば、下地(2018)『シリーズ記述文法1 南琉球宮古語伊良部島方言』(くろしお出版)では、典型的な形容詞相当形式が持たないような名詞的な性質を見せると述べられており、林(2013)『南琉球宮古語池間方言の文法』(博士論文、京都大学大学院文学研究科)では、名詞とされているが、どの程度名詞的な性質を持つかについては、十分に分析されているとは言いがたい。

本発表では、①自立形・非自立形・名詞について、項・叙述用法・名詞修飾・動詞化・否定・重複の観点から10のパラメーターを設定し、自立形・非自立形・名詞がどの程度共通点を持つかを考察した結果、10個のパラメーターのうち、自立形と名詞は、コピュラ jar- が後続して叙述用法として使われる点のみで値が共通していた。そのため、名詞とは相違点のほうが多いということから、名詞とは異なる品詞に分類するべきだと考える。そして、②非自立形と自立形は8つのパラメーターで値が共通しており、Dixon, R. M. W. (2004) *Adjective classes in typological perspective* (In Dixon, R. M. W., and Alexandra Y. Aikhenvald, eds., *Adjective classes*, 1-49, Oxford University Press) で述べられている形容詞の類型論的特徴—叙述か名詞修飾のどちらかあるいは両方の機能を持つ点(非自立形は名詞修飾の機能のみある)、比較構文で使われる点、基本形あるいは派生形で動詞修飾できる点—を有するため、いずれも形容詞と見ることができる。